

Ursula and Fritz Melchers Travel Award を受賞して

氏名	金丸 央	
所属	大阪大学微生物病研究所 自然免疫学分野	
発表論文 タイトル	Basic leucine zipper transcription factor ATF-like 2 exhibits an anti-tumor effect through upregulation of IL-12 p40 expression	

この度は Ursula and Fritz Melchers Travel Award に選出いただき大変光栄に存じます。Melchers 博士御夫妻をはじめ、選考委員の先生方、また本賞にご推薦いただいた審良静男先生、そして本研究を支えて下さった多くの方々に心より感謝申し上げます。

私は 2014 年に大阪大学微生物病研究所自然免疫学教室(審良研究室)に大学院生として入学しました。審良研究室はマクロファージを中心とした自然免疫のメカニズムについて研究しており、私が以前から皮膚癌の一つである悪性黒色腫に関する研究を行ってきたことから、悪性腫瘍に対する自然免疫学のメカニズムについて研究させていただくこととなりました。その研究の中で、マウスの悪性黒色腫のセルラインである B16-F1 を使った移植実験を用いて実験を行っていったところ、Batf2 という遺伝子の欠損マウスで抗腫瘍効果が減弱していることが分かりました。そのメカニズムについてさらに研究を進めていったところ、最終的に腫瘍関連マクロファージにおいて、抗腫瘍効果を持つ重要なサイトカインの一つである IL-12 p40 の発現を Batf2 が促進することで、腫瘍内の CD8⁺T 細胞の活性化と分裂を促進し、抗腫瘍効果をもたらしていることが分かりました。この研究内容は幸いにも論文に掲載され、今回、第 46 回日本免疫学会にて発表させていただく機会を得ることができました。本学会ではオーラルプレゼンテーションとポスターセッションで発表させていただく機会をいただき、多くの先生方から様々なご意見、ご質問をいただき、多くのことを学ぶことができました。また、シンポジウムでは免疫学の第一線の研究者の先生方のプレゼンテーションを聞くことができ、多くの非常に活発な議論を通して研究者の先生方の熱意を感じることができ、大変有意義な経験を得る機会となりました。学会 2 日目には Melchers 博士御夫妻と昼食会に出席する機会をいただき、研究者としてのこれまでのお話や多くの励ましのお言葉をいただき、今後の研究を進める上で大変励みとなりました。

悪性腫瘍に対する免疫のメカニズムは未だ不明な点が多く、新しい治療法の開発のために今後のさらなる研究が求められています。今回の受賞を励みとして、免疫学と臨床医学の発展に貢献できるようこれからもより一層日々努力していきたいと思っています。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。